

## 知っていますか？100 円玉

関連するプログラム

- プログラム 1  
あなたならどうしますか？
- プログラム 2  
たすけて、は見えにくい
- プログラム 3  
見えてる？見えてない？

形態：個人、ペア

時間：10 分程度

対象：小学生以上

人数：何人でも

準備物：参加者用ワークシート、100 円玉の拡大図

### 展開のしかた

- 1 100 円玉を頭の中に思い浮かべます。

【表】

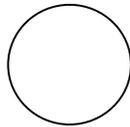


【裏】



- 2 思い浮かべた 100 円玉の表面を詳しく描きます。

知っていますか？100 円玉



- 3 自分が描いた絵と 100 円玉の拡大図とを比べ、思ったことや感じたことを発表します。

【例】・何気なくしか見ていなかった。  
・見ているつもりだった。

- 4 日本の硬貨についての話を聞きます。

### 言葉かけ例

1 100 円玉を思い出してみてください。裏面は「100」とあります。では、表面を思い浮かべてください。

2 今、思い浮かべた 100 円玉の表面をできるだけ詳しく描いてみましょう。

3 (1) 絵を描いてみて、どんなことを感じましたか。自分が描いたものと実際の 100 円玉とを比べて、どんなことを感じましたか。  
(2) 物事を正しく見るためには、意識して見るのが大切です。普段の生活でも生かせることはありませんか。

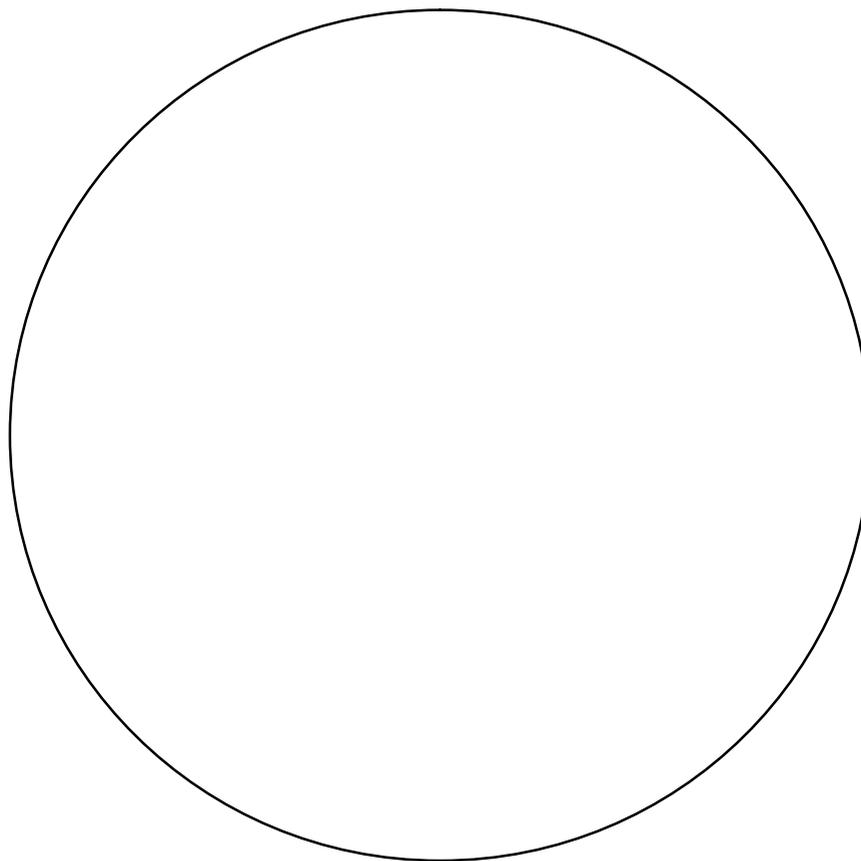
4 日本の硬貨のデザインについてお話しします。日本の硬貨は手で触るだけで判別できます。5 円玉と 50 円玉、10 円玉と 100 円玉は、それぞれ、穴があるか、縁にギザがついているかどうかで違いがわかります。

### ☆人権教育上のポイント

身近にある「100 円玉」を改めて思い出し、描く活動をとおして、普段見慣れてよく触れているものでも、正しく記憶しているわけではないことに気付きます。そして、物事をよく見て、正しく理解しようとする意識を高めます。

ワークシート

知っていますか？ 100 円玉



## ワークシート

○ 下のピクトグラム（絵文字・絵単語）の意味を書きましょう。



① (                    )



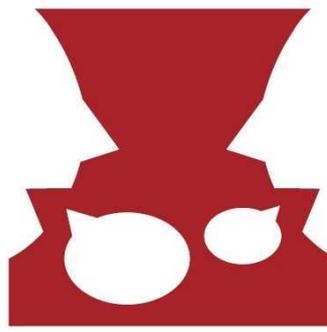
② (                    )



③ (                    )



④ (                    )



⑤ (                    )



⑥ (                    )

○ 絵で意味が伝わるピクトグラムのメリットとは何でしょう。



## ピクトグラムで考えよう

関連するプログラム

### ○プログラム1

あなたならどうしますか？

形態：全体・ペア

時間：10分程度

対象：小学生以上

人数：何人でも

準備物：ワークシート、例示用のピクトグラム、筆記用具

### 展開のしかた

- 1 「ピクトグラム」について説明を聞き、その例示からピクトグラムへの関心を高めます。



- 2 ワークシートを配付し、ピクトグラムが何を表すか考えて、記入します。

①



②



③



④



⑤



⑥



- 3 簡単な絵であっても意味が伝わることの重要性に気が付きます。また、自己紹介での実例から、各々が生活習慣に感染症予防を取り入れていることを知ります。

①換気 ②咳エチケット ③外出控え  
④密集回避 ⑤密接回避 ⑥密閉回避

### 言葉かけ例

- 1 「ピクトグラム」を知っていますか。それは「絵文字」「絵単語」と呼ばれるもので、絵で情報や注意を示すものです。例えば、これは「手洗い」を促すピクトグラムです。

- 2 これらは、感染症予防を呼びかけるため、厚生労働省が示しているピクトグラムです。①～⑥は何を表しているか、ワークシートに書きましょう。

- 3 (1) 答え合わせをします。  
※答えは左下□内のおりです。  
(2) いろいろなピクトグラムがありますが、絵で意味が伝わるメリットは何でしょうか。ワークシートに書きましょう。  
(3) これらのピクトグラムの中から、自分や家族が心がけている感染症予防を一つ選びエピソードを交えて自己紹介します。

### ☆人権教育上のポイント

情報や注意が絵で伝わり多くの人に理解されるピクトグラムのメリットに気付くとともに、実例の紹介から互いの取り組みを知ります。また、自分や自分の家族の感染症対策を再確認することで、学びへの意識を高めます。

## 私のナンバー

関連するプログラム

- プログラム2  
たすけて、は見えにくい
- プログラム3  
見えてる？見えてない？

形態：ペア  
時間：10分程度  
対象：小学生以上  
人数：何人でも  
準備物：A4用紙

### 展開のしかた

- 1 A4の紙を四等分にし、そのマスの中に自分自身に関係のある数字（1～12）を書き込みます。

【例】

2	5
7	11

- 2 ペアの人と簡単に自己紹介した後、その数字と自分の関わりや意味を伝え合います。
- 3 共通の数字があったら丸をつけます。
- 4 共通の数字があったとき、またはなかったとき、どのような気持ちでしたかを考えます。

### 言葉かけ例

1 A4用紙を横にします。縦に半分、横に半分に折り、4つのマスを作ります。その中に、自分自身に関係のある数字（1～12）を思い浮かべ、書き込みます。

2 ペアの人と簡単に自己紹介をした後、自分の書いた数字に関係するエピソードについてお互いに伝え合います。

3 共通する数字があったら丸で囲んでください。

4 共通の数字があったとき、どのような気持ちになりましたか。なかったときは…。活動の前と比べて気持ちの違いはありますか。

### ☆人権教育上のポイント

お互いが自分に関係のある数字を用いた自己紹介をすることで、相手への関心をもち、理解を深めようとする意欲を高めます。さらに、同じ数字の背景にあるエピソードが相手との距離感を縮めたり、違うと感じたりすることをおして、多様性を受け入れようとする意識を高めます。

図 A

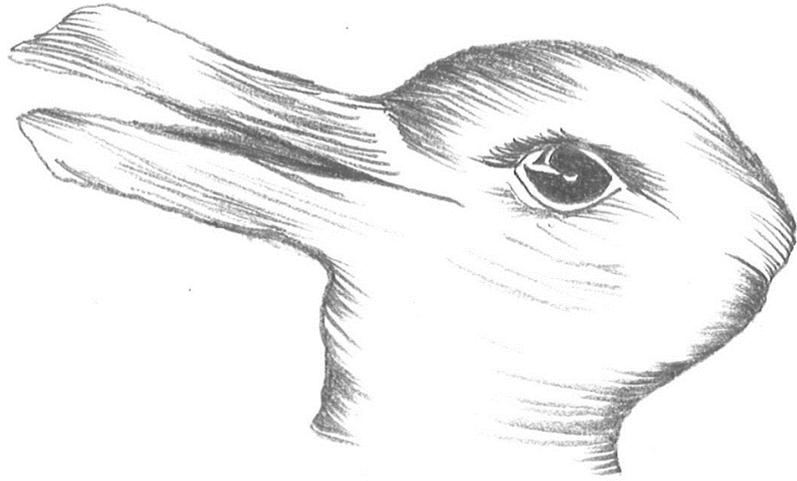


図 B



## ものの見方・考え方

関連するプログラム

- プログラム2  
たすけて、は見えにくい
- プログラム3  
見えてる？見えてない？

形態：個人、ペア

時間：10分程度

対象：小学生以上

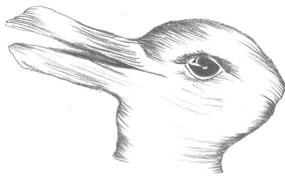
人数：何人でも

準備物：2枚の絵（「鳥とうさぎ」、「婦人と老婆」）

### 展開のしかた

### 言葉かけ例

- 1 図Aを見て、どんな生き物に見えるか考えます。



図A

- 2 図Bを見て、女性の年齢を考えます。



図B

- 3 図Bから二人の女性が見えるか考えます。（二人の女性が見えるよう、解説を加えます。）

- 4 今までに一面的な見方しかできず、決めつけてしまった経験を思い出します。

- 1 (1) この絵を見て、どんな生き物に見えますか。（少し時間をとる。）  
(2) 「鳥」と「うさぎ」が同時に見えますか。

- 2 (1) この女性の年齢は何歳位だと思いますか。（少し時間をとる。）  
(2) 「若い女性」に見える人と、「高齢の女性」に見える人がいます。二人の女性の顔が同時に見えますか。

- 3 若い女性    高齢の女性  
・後ろ向き    ・横向き  
・右耳        ・右目  
・あご        ・鼻  
・首飾り      ・くちびる  
このように見るとどうですか。

- 4 物事を見るときには、一面的な見方ではなく、見る角度や、どこを中心に見るかなど、いろいろな視点に立って考えることも大切だと思いませんか。

### ☆人権教育上のポイント

複数の解釈ができる絵について考えることをとおして、物事には、多面性があることを知り、意図的に複数の視点から見ようとする大切さに気付くことができます。人間関係においても、相手の短所ばかりを捉えていると長所が捉えにくくなる、ということに気付き、様々な視点に立って考える意識を高めます。

## 3つのサイン

関連するプログラム

○プログラム2  
たすけて、は見えにくい  
○プログラム3  
見えてる？見えてない？

形態：全体

時間：10分程度

対象：小学生以上

人数：何人でも

準備物：色上質紙3色または付箋紙3色（緑色、黄色、桃色）

### 展開のしかた

### 言葉かけ例

1 「3つのサイン」についての説明を聞きます。

「緑色」・・・男性

「黄色」・・・女性

「桃色」・・・どちらともいえない

2 質問に対し、3つのサインのうち自分の考えに最も近いサインを示します。

#### ◆質問の例

- ・料理が得意なのは？
- ・家庭でゴミ出しをするのは？
- ・学校や地域の奉仕作業に参加するのは？

3 質問ごとに、そのサインを選んだ理由を数名に聞きます。

4 気付いたことや感じたことを数名に発表してもらい、活動を振り返ります。

1 今からいくつか質問をします。その質問に対して「男性」をイメージする人は「緑色」、「女性」をイメージする人は「黄色」、「どちらともいえない」人は「桃色」のサインを示してください。

2 サインを出したら、他の参加者がどんなサインを出しているか、周囲を見回してください。

3 それぞれのサインを出した人の中から何人かの人に、選んだ理由を聞いてみたいと思います。どうして、そう思ったのですか。

4 男性の立場、女性の立場、それぞれの意見が出されましたが、お互いを尊重し、男女とも平等な関係を築いていくことが大切です。

### ☆人権教育上のポイント

日常生活における男女の役割分担についての質問に答えることで、自分の中の男性や女性に対するステレオタイプに気付くことができます。男女が協力し、尊重し合いながら、平等な関係を築いていく大切さに気付きます。

## 後出しジャンケン

関連するプログラム

### ○プログラム2

たすけて、は見えにくい

形態：全体  
時間：5分程度  
対象：小学生以上  
人数：何人でも  
準備物：なし

### 展開のしかた

### 言葉かけ例

1 ルールの説明をします。  
ファシリテーターが「ジャンケンポン」というかけ声で出したジャンケンを見て、参加者全員が（「ポン」と言いながら）後出しでジャンケンをします。

2 最初にファシリテーターと「あいこ」になるようにジャンケンをします。続いて「勝つ」ジャンケン、最後に「負ける」ジャンケンを行います。

3 「あいこ」「勝つ」「負ける」のうち、難しかったジャンケンについて思い浮かべ、どうして出しにくいのかを考えます。

1 ルールを説明します。私が「ジャンケンポン」と言って出したジャンケンを見て、みなさんは「ポン」と言って、後出しでジャンケンをしてください。

2 (1) まず、私と「あいこ」になるように出してください。  
(2) 次に、私に勝つように出してください。  
(3) 最後に、私に負けるように出してください。

3 後出しジャンケンをしてみてどうでしたか？  
「勝つ」よりも「負ける」方が難しいのは、幼い頃から、ジャンケンは勝つために行ってきた「経験」が「習慣」になっているからです。普段の生活の中にも、無意識で決めつけたり偏見を持ったりしていることがあるかもしれませんね。

### ☆人権教育上のポイント

後出しのジャンケンをすることで、「勝つ」よりも「負ける」方が難しいことに気がきます。それは、勝つようにジャンケンをしてきた「経験」が「習慣」になっているからです。普段何気なくしていることに固定観念があり、普段と違うことをするのは難しいこと、柔軟に物事をとらえることが大切であることに気がきます。

## 流れ星

対応する人権問題

### ○プログラム2

たずけて、は見えにくい

形態：全体・ペア

時間：10分程度

対象：小学生以上

人数：何人でも

準備物：ペン（カラーペン）、A4程度の大きさの紙

### 展開のしかた

- 1 ペアを決め、個別に紙を配ります。
- 2 「流れ星」「月」「木」「花」を順番に描きます。（カラーペンを使用する場合は、好きな色で描いて良いことを伝えます。）
- 3 ペアの人と絵を見せ合い、自分との違いを確認します。  
【違いの着眼点例】
  - ・「流れ星」大きさ、流れる向き、形等
  - ・「月」形、大きさ、位置等
  - ・「木」形、大きさ、位置、葉の様子等
  - ・「花」形、大きさ、位置、数等※カラーペンを使用したときは、色の違いも確認すると良いでしょう。
- 4 簡単な絵であっても、人によって描き方には様々な違いがあることに触れ、活動のふりかえりをします。

### 言葉かけ例

- 1 これから、紙に4つの絵を描いてもらいます。絵は上手かそうでないかは問いません。紙は縦長に使っても、横長に使っても構いません。
- 2 まず「流れ星」を描いてください。次に「月」を描いてください。さらに「木」を描いてください。最後に「花」を描いてください。
- 3 ペアの人と絵を見せ合い、自分の絵との違いを確認しましょう。例えば、大きさや星の流れている方向、形に違いはありますか。月の形や位置、大きさに違いはありますか。
- 4 色々な違いがありましたね、絵が間違っているわけではありませんよね。この活動をとおして、どんなことを感じましたか。

### ☆人権教育上のポイント

自分がイメージしたもので、他の人が同じイメージをもっているとは限らないことに気付きます。また、お互いの考えを認め合うことができるような雰囲気をつくり、これからの学びにつなげます。

# サイレント・ジャンケン

関連するプログラム

○プログラム3  
見えてる？見えてない？

形態：ペア  
時間：10分程度  
対象：小学生以上  
人数：何人でも  
準備物：なし

## 展開のしかた

## 言葉かけ例

- 1 ルールの説明をします。
  - 全く声を出さずにジャンケンをします。
  - 勝ったらジェスチャーで勝利の喜びを表します。
  - 2回目以降は、勝ったら前回の勝利のジェスチャーより大きなジェスチャーで勝利の喜びを表します。
  - 「あいこ」になったらリセットします。

- 2 実際にジャンケンをします。（時間や会場によっては、途中でペアを変えて行うことも可能です。）

- 3 このジャンケンの勝利は普通のジャンケンの勝利とどのような違いがあったか、また「あいこ」のときの気持ちなどを振り返ります。

1 全く声を出さずに行うジャンケンです。これからルールを説明します。

勝ったらジェスチャーだけで勝利の喜びを表してください。2回目からは、前回のジェスチャーよりも大きなジェスチャーで勝利を表してください。「あいこ」になったらジェスチャーはリセットします。

2 それでは、声を出さずにペアの人とジャンケンをしてください。

3 このジャンケンで勝ったときどのように思いましたか。普通のジャンケンの勝利との違いは何でしょうか。また「あいこ」のときの気持ちはどうでしたか。

## ☆人権教育上のポイント

ジェスチャーもコミュニケーションの大切な方法であることに気付くとともに、相手に対する関心を高めます。また、勝ったときやあいこのときの気持ちを考えることで、相手を尊重した動作や接し方の重要性に気付きます。

## 指遊び〔指折り・親指と小指〕

関連するプログラム

### ○プログラム3

見えてる？見えてない？

形態：全体  
時間：10分程度  
対象：小学生以上  
人数：何人でも  
準備物：なし

### 展開のしかた

- 1 〔指折り〕
  - (1) 両手をパーにした状態で、親指から順に1～10まで数えます。
  - (2) 片手をパー、反対の手は最初から1本折り曲げておき、指を折りながら10まで数えます。
- 2 〔親指と小指〕

両手の手のひらを自分の方に向けて前に出して軽く握り、左手は親指を、右手は小指を出します。（ファシリテーターは参加者と正対するので逆の手が望ましいでしょう。）
- 3 「1」の合図で、両手の指を元に戻し、「2」の合図で左手は小指を出し、右手は親指を出します。「1、2」の合図で指は反対になります。
- 4 「1、2」の動作を歌に合わせます。

（例『もしもしかめよ』『どんぐりころころ』など、短めで誰もが知っている曲をゆっくり歌います。）
- 5 活動のふりかえりをします。

### 言葉かけ例

- 1 (1) 両手ともパーにしてください。親指から順に折っていき、10まで数えます。  
(2) 次に片手をパー、反対の手は親指を折り曲げます。この状態から指を折りながら10まで数えます。

- 2 私と同じように、両手を前に出して、左手は親指を、右手は小指を出します。

- 3 これから「1、2」と合図を出します。「1」の合図で今出している指を引っ込め、「2」の合図で左手は小指を、右手は親指を出すようにしてください。少し練習します。「1」、「2」、「1」、「2」…。

- 4 これから『例：もしもしかめよ』を歌いますので、それに合わせて指を出したり引っ込めたりしてください。ゆっくりいきますね。

- 5 楽しかったのはどちらの指遊びでしたか。間違えてしまったとき、どう感じましたか。

### ☆人権教育上のポイント

二つの指遊びの活動をとおして、心地よい雰囲気を感じるとともに、これからの活動への緊張をほぐします。また、温かな雰囲気は他者を認めることで生まれることに気付きます。

## リズム遊び（拍手・指揮）

関連するプログラム

### ○プログラム3

見えてる？見えてない？

形態：全体  
時間：10分程度  
対象：小学生以上  
人数：何人でも可  
準備物：なし

### 展開のしかた

### 言葉かけ例

#### 1 〔拍手〕

ファシリテーターが「1、2、3、1、2、3…」と3拍子を声に出しながら指1本を出したら「1」のとき拍手をするようにします。

1 「1、2、3、1、2、3…」と言いますので、私が指を1本出したら「1」のときに拍手をしてください。練習しましょう。

2 同じように指を2本出したら「2」のときに拍手を、指を3本出したら「3」のときに拍手をするようにします。

少し練習したら、指の本数をランダムにしたりスピードを速めたりします。

2 指2本のときは「2」のときに、指3本のときは「3」のときに拍手をしてください。  
出す指の数やスピードが変わりますので、ついてきてくださいね。

#### 3 〔指揮〕

左手は2拍子、右手は3拍子になるように手を大きく動かします。（ファシリテーターは正対するので逆の手が望ましいでしょう。）少し練習します。

3 3拍子に慣れたところで、マルチな指揮者になっていただきます。左手は上下で2拍子を取り、右手は三角形を描いて3拍子をとります。これを同時に動かします。

4 ファシリテーターが「1、2、3、1、2、3…」と3拍子を声に出し、2回目の「3」のときに両手と同じ位置になることを説明します。（3拍子の童謡に合わせることも可能です。）

4 「1、2、3、1、2、3…」と言います。2回目の「3」のときに両手と同じ位置になるはずですよ。  
※「ぞうさん」、「海」に合わせてやってみましょう。

5 活動のふりかえりをします。

5 リズムはとれましたか。できたときはどんな気持ちでしたか。

### ☆人権教育上のポイント

二つのリズムとりの活動をとおして、温かな場の雰囲気をつくり、これからの活動への緊張をほぐします。また、自分の思い通りにならないことに気付くとともに、人によってできることに違いがあることを知り、他者を認めようとする態度を育てます。